

◆マリンカレッジ

学習支援教室NPOへの少年水産教室

水産海洋技術センター 紫波俊介、牧野清人、米丸浩平

※1. 久保弘文、※2. 知念りえ

1. 目的

生活保護受給世帯への学習支援教室と連携し、同生徒に対し、少年水産教室を実施することで、地域の社会人や産業・食物に直接ふれあい、地域との繋がりを感じて、自分らしい生き方実現への機会の一つとすることを目的とする。

2. 方法と結果

(1) 少年水産教室の開催

新垣哲二指導漁業士より、与那嶺克也那覇市沿岸漁協組合員、NPO法人エンカレッジ糸満学習支援教室（生活保護受給世帯児童に対する学習教室）から少年水産教室開催の協力依頼を受け、6月29日に糸満漁業協同組合にて開催した。

他に糸満漁協、高江洲鮮魚（仲買）と水産業に関わる複数の業種が協力し、児童21名（糸満・豊見城・那覇）、教諭、市職員等が参加した。

「沖縄の水産業」「マグロ」「ソデイカ」「サンゴ」「モズク」「解体」「調理（マグロ・イカ丼、モズクそうめん）」の授業と、授業内容のテストを実施した。

調理については、家庭環境を考慮し、ご飯の炊き方、包丁の研ぎ方、刺身の切り方、そうめんの湯がき方を伝え、食事を自分でも簡単に作る事が出来るような内容とした。

また、残った食材はレシピを添付して持ち帰ってもらい、帰宅後自分でも調理ができたり、親に調理へ関心を持ってもらう事とした。

解体に用いたマグロは漁業者より、食事にて出された魚汁は高江洲鮮魚より、無償提供頂いた。

テストは、不登校の子供も多い様で、本取組が学校の評価対象となるよう盛り込み、「沖縄の水産業」は社会、「モズク」の顕微鏡の扱いについては理科で、テストが出来るような内容とし、所属学校の成績評価に追加された。

(2) 漁業士等に対する授業内容の発表及び絵画贈呈

NPOより、「人前で発表すると、自信が付き学習意欲が増す」との話を受け、漁業士会会長と調整し、7漁業士会総会終了後、情報提供の時間にて、同校生徒の自作DVDによる授業内容の発表や、イカ墨で書いた絵の贈呈の場を設けた。

終了し、関係者に対し御礼を伝えた後は、漁業士から大きな拍手を受けていた。

(3) その後（沖縄水産高校への進学）

生徒・講師からは好評で、料理も好き嫌い無く食事し、今後授業内容や協力体制を元に来年も実施してだけでなく、他市町村の学習支援教室でも漁業士と連携して活動を広げたいとの連絡があった。

また、受講生徒1名が、沖縄水産高校へ入学した。

3. 考察

生活保護受給世帯の児童は、親の学習に対する意欲が乏しかったり、学習する機会が少なかったりする事が多く、また不登校児童も少なくないとのことである。しかしながら、刺身を切る等、自己表現がうまくいった場合、飛躍的に学習意欲・能力が増すことがあるらしい。他業

※1. 海洋資源・養殖班職員

※2. 水産海洋技術センター非常勤職員
務との優先順位が大変難しいが、水産技師が貢
献できる部分では有るだろう。

本取組やNPOの意向を、複数名の漁業士へ連絡
した結果、今後も継続していきたい、場合によ
っては糸満以外の何カ所かで実施しても良いと
の回答だった。

普及員会議の結果、結果と漁業士からの要望

を鑑みて、今後普及員なしでも他地区で実施で
きるよう、基本的なコンテンツを確立するため、
3年間の継続事業となった。

今後、沖縄水産高校へ進学した生徒が漁業者
や仲買となり、講師となることを漁業士との共
通目標とし、一名でも多く水産高校へ進学した
くなるような授業を行いたい。



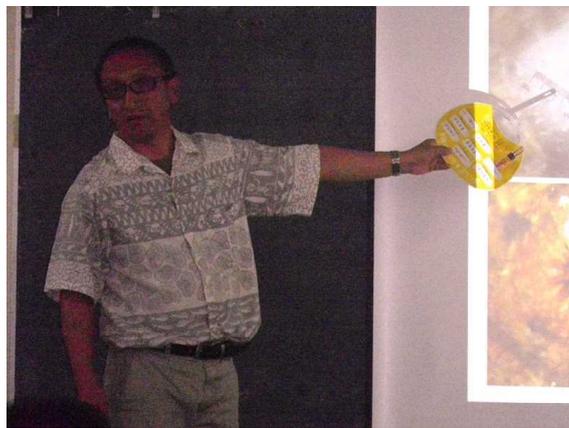
当職より漁業・水産加工業と、イノーおよび
海の利用と埋め立てについて説明



与那嶺那覇市沿岸漁協組合員より
漁具・スライドを用いた集魚灯漁法説明



新垣・岸本漁業士より、漁船にて
ソデイカ漁法説明



久保研究主幹より、サンゴの生態
と役割について説明



牧野普及員よりもずく説明と検鏡体験



女子は炊飯も

高江洲薫氏より、マグロ・ソデイカ解体



包丁研ぎにも挑戦



刺身も切りました



二食井と高江洲鮮魚特製魚汁



与那嶺組合員より提供のイカ墨を用いて、龍の絵。上手だね
日が経ったイカ墨臭かったね



沖縄県漁業士会総会にて児童より水産教室報告及び御礼